

# レタス菌核病の新しい ほ場診断システムの開発

## 【背景・目的・成果】

淡路地域のレタス産地では菌核病が問題となっています。それに対して農薬散布、湛水処理など様々な防除対策がありますが、発病程度を予測する手法がないため、ほ場毎に最適な防除方法を確定することが困難でした。

そこで、人の健康診断のように診断項目から病気になるリスクを予測する考えを取り入れて、様々な診断項目と発病の関連を調べた結果より、ほ場ごとの発病リスクに適する防除方法を選択する新しいほ場診断システムを開発しました。

## 1 レタス菌核病とは

糸状菌の *Sclerotinia sclerotiorum* による病害です。病徴は、外葉の基部から水浸状の褐変が見られ、萎れます。病徴が進むと腐敗、枯死します(写真①)。最も特徴的な標徴はネズミの糞状の黒い菌核を形成します。圃場に残された菌核から菌核から直接菌糸を伸ばし、伝染します。また、子のう盤(写真②)を形成し、子のう胞子を飛散させ伝染します。



## 2 診断手順

〈ほ場診断手法の概要〉

- ①前年の発病株率の調査
- ②聞き取り調査  
聞き取り調査票に基づき、圃場毎に必要な項目を聞き取り(下記の聞きとり票)
- ③ほ場における菌核残存調査  
(①ができない場合に実施)

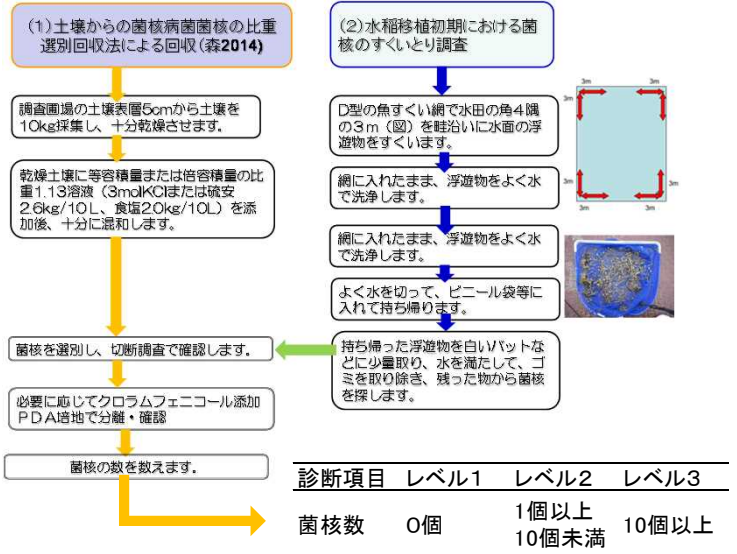
## 4 評価方法

下記の各診断項目ごとのレベルから診断点数合計を算出します。

診断項目	レベル1	レベル2	レベル3	診断点数
前作の発病株率 (%)	0%	10%未満	10%以上	
問診① (薬剤防除対策)	0	+1	+2	
問診② (湛水対策)	0	+1	+2	
問診③ (排水性)	0	+1	+1	
診断点数合計				

\*1は下回の必須防除時期における防除を指す

## 3 ほ場における菌核残存調査方法 (前年の発病株率が不明の場合)



## 5 発病リスクに応じた防除対策の選択

診断点数合計により発病のしやすさを3段階に分けます

診断点数合計	発病しやすさのレベル
0	1
1~3	2
4以上	3

発病しやすさのレベル	防除対策	共通の防除対策 (どのレベルでも必要)
レベル1	・各作型の必須防除適期0回防除	・排水対策 ・発病株の移動への抑制
レベル2	・各作型の必須防除適期0回防除 + ・その後の30日後の防除	
レベル3	・水稲作の実施もしくは夏期の最低4日間の連続湛水処理 + ・ミタMG(コオチリウムミタックス水和剤)の施用 + ・各作型の必須防除適期の1回防除+30日後の防除	

発病しやすさのレベルごとの防除対策を選択します。

## 【技術の活用】

詳細なマニュアルは旧農業環境技術研究所HP(<http://www.niaes.affrc.go.jp/techdoc/hesodim2/#tool>)からダウンロードし、活用することができます。